

宇治拾遺物語 十二 (江戸後期)

梶山女学園大学デジタルライブラリー

梶山女学園大学図書館

寧治拾遺物

十一

宇治拾遺物語卷第十二目錄

一 達磨見天竺僧事 ふつらま みるてん たらんをこれとてふ事

二 提婆不立河奈於樹菩薩事 たてば ことり かなへ なる じゆ ぼつ ざつ じゆ

三 慈惠僧止延引受戒之目事 じゆい ぼう ぢよん けん じゆ かい じゆ め じゆ

四 内記上人破法師陰陽師紙冠事 うちき じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ

五 持經者嚴實効驗事 ぢゆ けい じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ

六 空也上人臂親音院增正行直事 くう じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ

七 増笑上人奈三条宮振舞乃事 ぢゆ けい じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ じゆ



宇治拾遺物語

八 聖寶僧正汲一条大路事

九 穀折聖不實露頭事

十 季直少將歌此事

十一 樵吏小童隱題奇讀事

十二 忠侍奇讀事

十三 信々ゆきうら乃事

十四 あ侍主人奇此事

十五 河原院融云靈位事

十六 八葉童孔子向答此事

十七 薺太尉事

十八 貧俗親佛性富事

十九 宗行郎未射虎事

二十 遣唐使子被食虎事

二十一 或上達部中將之時違召入事

二十二 陽成院妖物乃事

二十三 水委激敵ひさ乃事

三台二目録

く圍其君うけあり極をまねて一人を立り一人は居
りて見るに忽然と志く夫ぬおんかきりやど
よ立ち僧はぬわたりとんかやどに立ち居わくる
僧にせぬまねもまじりぬまじりてとて思く圍
碁乃わら地事ありとてを結るに證果乃上人よ
そゆきしきまじりの碁をまねるんとけ行り老僧
善のこく年来このあまじりや地事あり地黒
勝と見し我煩惱勝ぬとありと白勝時を并
勝ぬと怪打し随く煩惱の黒を失ぬ并の真
んかおと城かふふのまじりて證果乃上人と
ありたりとて不報尚房をいぞ地僧は怒りまね

をれを年来のくわの命に修家人くはくまのりて三風貴

三ちりとおん

昔西天竺の松樹并と尸上人あり佛を智恵甚深也

又中天竺の提婆安并と尸上人竜樹のちを布りきよ

く城の中流る西天竺の行向て門和にきて安内

を尸上人とて終るわの松樹子あり来行ていり

ある人なりまの佛をうとて提婆安并とて行

大行乃ち志ありありはけりてを善佛よりて證

を志乃ち中天安うりてまのくまのりて并りこれし

大へまじりの松樹子松樹にやありて松樹よ

ありてまのりて提婆安并はけりて松樹乃標より針

うらぬへと志しはせむくをく之向てこれより
せせとむり此給つるごとくあつたれ人くとも
くあはれをせむかひしく風退散ぬが心や
に未乃何むらに大風吹て南門よりあはれを
るれと人くくこれらあはれをせむかひと感
りて志しをり

内記上人舜公といふ人ありまろしを公堅固乃人あり
堂を造り塔をまつる寂上乃吾根ありて物を
せしむあり材木紙は播麻ふよひくそれを
あに法師陰陽師紙冠をせしむ後するを
きてあそそく馬よりかりてをりつて

あよりいふし陰陽師をせしむ後しゆありといふるに
し紙冠をいふるあそそくを後すれ神達信し
紙も志し人む後するをあそそくをりて
とふよ上人あそそくをあそそくをりて陰陽師よ
取れれ陰陽師のし作夫し後をせしむ
あそそくをいふといふ後すする人もあそそくをり
上人冠をりて引をかりてあそそくをりあり
ありて陰陽師佛才ふといふりし後すれ神達信し
紙といふく如米乃志しををりてあそそくを無
同地獄の業をいふるをり紙を紙よりあそそくを
ありそそくを公をいふせといひてあそそくを

うつりて為人所よとくおなり。餘者僧正又と衆
 舎し給物ころと亂どし給やどに僧正の給る乃
 臂ひぢのいりあして折行へふらうと上人のつとく我母物孫好
 して幼ちひあ乃時片よを奉て投なりやどに折て得
 とそや得し幼ちれまき乃志とあれもわか得るに
 せくあく左うて得る右よ折得るまのつとく
 僧正の折るこそ貴き上人うておんは天皇は此
 子とこそ人きせいとわうをわし此臂まをたに
 折あしやせんためゆと人云む悦得へし實に貴
 得るんこ乃加指し給として折くままの教中此へ
 渡りくお是れを傳う乃とま僧正頂より悪をあら

ついて加指し行よ志をくくあつてまがれるに
 してことありと乃むね別右乃臂れをくはらう
 と人涙をわうしてとな礼物を見人ふれの光き
 獸し或いあききり其自上人共まじりし座を
 人具しきると一人の繩をとりあはれむる座あり乃
 よ落しるあるき繩をとれ落むる壁つらにらふ
 て古堂乃をあききりし壁を壊すまを流一人
 瓜乃皮をとりあはれ先くあはれく獄をよ
 あふまき一人の反古乃落あふるとむる白あつ
 めて紙よすきて種と書きしきとまらふら乃
 反古乃皮を臂あをりまらる布施よ僧正よな

一色あぬらうはせんは何事ぞおしらせぬ
 もつたふき物置ありとせうし共しきう
 人乃らうしはふはせ色ははゆりまぬ乃智
 しとありきるものをもとふは所産内
 くは女房きらわらにそと郷殿上人借きら
 ころきまのく用くらもとてゆかゆえ乃
 きあり貴きもそぬせとあくゆらわし
 へてしきうもあはぬらにそと人さゆり
 ぞて種りもあはせてそゆらうちそて
 ちへまそそと痲病のそゆらうちそて
 修ふ候とそとめしゆつてお梅くいつる

ていむつうがゆらうとおありそてつて
 乃まのそとゆらうと虎をゆらうとゆら
 つはゆらうとゆらうとゆらうとゆら
 ぬあまがそとゆらうとゆらうとゆら
 かいそとゆらうとゆらうとゆらうと
 本とゆらうとゆらうとゆらうとゆら
 よしとゆらうとゆらうとゆらうとゆら
 ぬてゆらうとゆらうとゆらうとゆら

むらし東より上座法師乃つうとゆら
 あるゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
 老尼檀會よつとゆらゆらゆらゆらゆら

よきものにて自らを治さんぞしさればおめだのりて
ヨキを新羅國へ見せしめてゆく事そおきりたる事
に新羅國のさんいといふ事を乃の志うの志りさ
をあるとてうそへいせられさうに人々を捕ま
しよぞ乃男を虎のいせりありあるとてそ
あるがみえういせられ人々を捕まて逃して
むるなりといふ事をさして乃男のいせり乃
虎は合して一矢を射て志願をやとてゆあく事
とてよしそ志願めすといふ事いせりさ
まじけふの人の無乃乃と治さんぞしされば
まじけ人々を捕まておれさうに日

せしめられむかひあき事なれど人々といふ人々
てめ あるといふもよりのぬまことやこ乃さの
人々を全くとし人々といふ事ありとてそれ
あるゆぬとておきよ守りてめ家とて治さんぞ
とてこ乃男のいせりこ乃おれ人々を捕まて
さして敵を治さんと思ふ事いせりさ
乃男を治さんと思ふ事いせりさ
はまかりおきぬといふ事いせりさ
ゆをいせりさいせりてまかりあへむ事いせり
然り弓矢よき事いせり物ありとて我身と思ふ
おとめとんとて守りてそ治さんぞしされば

東へていんありける大なる池乃ありけり
よき此の福なる事建の夜中そるにわたく
あるよよとてこ乃わたくしをさうとくひて
まりきしつとてわたくしをさうとくひて
よつてたつとそりきしつとてわたくしを
乃おたれわたくしをさうとくひて
あまのつとてわたくしをさうとくひて
しんりこ乃をさうとくひて
ひり福なる事建の夜中そるにわたく
たつとそりきしつとてわたくしを
とるふとわたくしをさうとくひて

あつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて
とあつとわたくしをさうとくひて

は鳥羽院浄水堂
やれ北乃むりて
かきてわたくしを
そつとわたくしを
ひり福なる事
とあつとわたくし
とあつとわたくし

池乃うへをこれ行きふにわきんを知りてあつて
あよのちよは縁あがしよく刺く刺るなりをいへはこ
しゆへて池のわち入地あるなりそのち人をいへ
く火をとりてめんくんをいへゆへとく大町家
印きく乃年なり毛まを色をまふとけぬるそ
そなりきる

つまきむじり一糸様おなよある男を病うてをい
せと名一きりき家よ夜中えうりに風吹ぬあり
くすはゆいありけりは去路は諸行無常と誂し
てさるるありきたるものあらんと思ひく志とみま
と一あきてこをいへ長き將とひくりて馬乃

おらひの家鬼ちりちりちゆう流しはた志とみまか
もそやうなりく人入きれは鬼格子を一あまを
おれは入くよくおれは一けりぬくとPをいへ
そらとをぬきてゆへえまんとかまふく女はえ
うをいへをまきくゆきるはよしくゆらんせよとれ
くゆはあり百鬼夜行よてある屋さんとゆう流
しかりけあられなり一糸乃様おなりは又とこま
らきりきるとけし